



がんばれ！！若き就農者 新規就農者励ましの会を開催

5月31日に町営農支援センターで、新規就農者励ましの会を開催し、青年農業者育成に尽力いただいている指導農業士、女性農業経営士をはじめ、認定農業者や関係機関を含め60名程度が出席し、屋久島の農業を支えていく新たな仲間を激励しました。

本年度の新規就農者は、笹原工さん(湯泊, 果樹経営), 日高和博さん(麦生, 果樹経営), 池田耕さん(栗生, 工芸作物経営), 山地竜馬さん(口永良部, 畜産経営)の4名。

新規就農者の方々からは、「皆さんのようなすばらしい農家を目指して頑張ります」等の今後の農業経営に対する抱負が語られ、先輩農業者からは、「様々な情報を収集し、農業へ活かすことが大切！、より高い目標を持って頑張ってください」とエールが送られました。

就農された方が早期に経営を確立し、地域農業の担い手として活躍されるよう、農業普及係では、関係機関と協力しながら、技術・経営等を支援します。



新規就農者の方々 <前列左から3番目：笹原工さん, 4番目：日高和博さん>

かいよう病の防除対策の基本

かいよう病は、カンキツ類に発生するバクテリアによる病気です。病原菌の中でも感染速度が速いのが特徴です。**感染を左右するポイントは、「水」と「傷」**です。下の図は、かいよう病の1年間を示した図です。かいよう病は、夏秋梢のミカンハモグリガの食害痕や台風による葉や果実の傷口から感染しやすく被害が拡大するため、夏秋梢の発生が多い年や台風襲来が多い年に発生が多くなります。

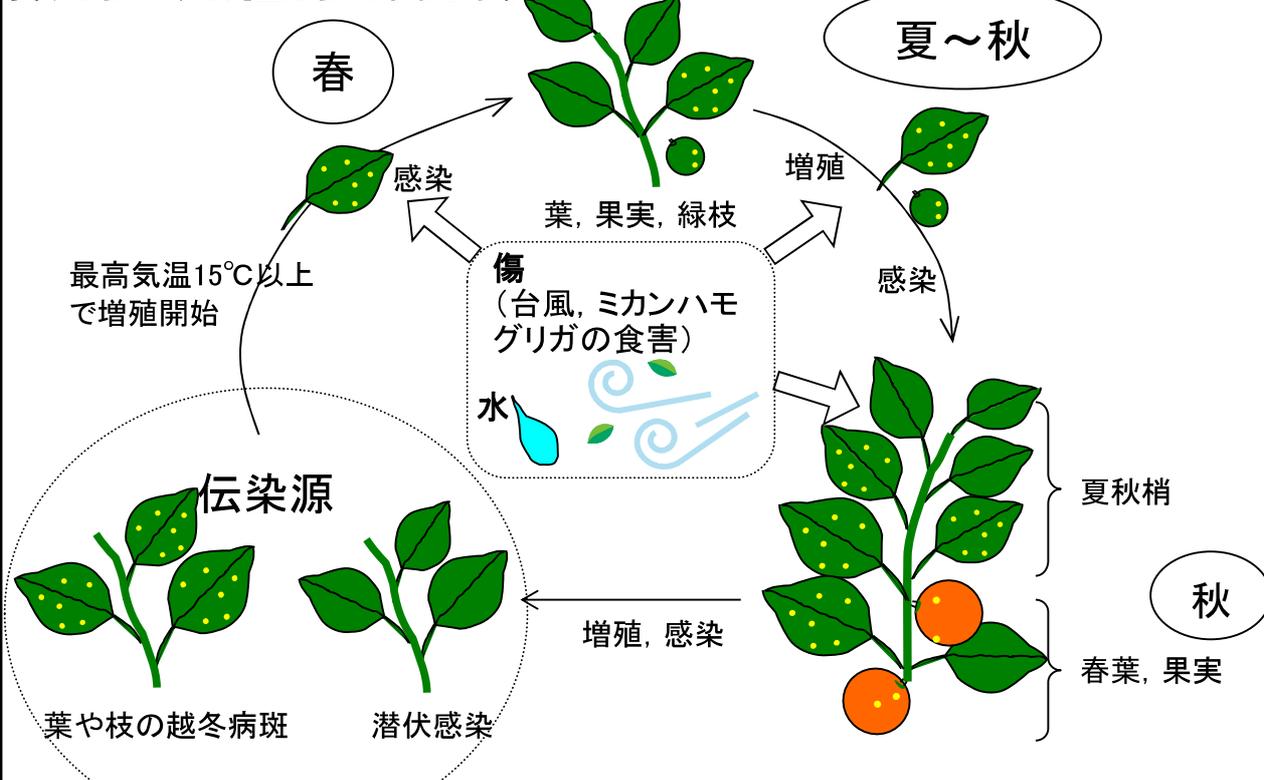


図 かいよう病の伝染環

防除対策

耕種的防除

- ①伝染源の除去
- ②防風対策
- ③夏秋梢の管理

ポイント!!
 甘夏などのかいよう病に弱い品種は、成木でも夏秋梢に対してミカンハモグリガの防除をします。

化学的防除

- ①発芽直前
- ②開花直前
- ③落弁直後
- ④梅雨期
- ⑤台風襲来前後

ポイント!!
 薬剤防除は、左にある防除時期のどこか1回を防除しても効果は期待できません。予防的に発芽直前から定期的な防除を実施することで薬剤の効果安定して現れます。



図 ミカンハモグリガの食害痕に発生したかいよう病



図 かいよう病の被害果 (担当：濱島)

生産牛の繁殖成績向上対策について

1 屋久島本島地域の生産牛の繁殖成績

平成23年、24年分娩牛の授精実績をみると、初回授精は70日前後、受胎までの授精回数は1.4回、受胎時の分娩後日数は90日前後という状況にあります。全体として、**分娩後の初回授精は遅いけれども、受胎率は良く、繁殖成績は概ね良好**という形です。ただ、全体としては**概ね良好でも、改善の余地**はあります。例えば、牛毎の初回授精日は、35%の牛は分娩後41～60日に授精できていますが、81日以上になっている牛＝初回授精時点ですでに年1産は不可能が27%もいます。生産者毎にみても、**平均初回授精日が81日以上の農家割合は38%あり、個人差があります。**



2 繁殖成績向上のための基本技術と優良取組事例



「適正な飼養管理を行う」



- ・飼料給与は、**良質粗飼料を中心に、母牛の繁殖ステージ、必要量に応じた給与が基本**です。胎子が急激に発育する**妊娠末期や分娩後の授乳期には、飼料の増し飼いが必要**です。授乳期に痩せてくる牛はエサ不足です。不足分は配合飼料等で補います。
- ・産後の飼養管理での運動の重要性は昔からよく知られています。繁殖機能の早期回復を図るため、**運動場や放牧場での運動、日光浴を励行**しましょう。



「発情を見逃さない」



- ・発情発見は子牛生産経営の起点となる、日常管理で最優先されるべき管理作業です。発情発見率は農家間で差が大きいとされますが、**夕方から夜間、早朝を中心に発情発見(観察)の時間を設ける**ことが大切です。
- ・また、繁殖授精記録の活用やマウントディテクターなどの補助具の利用も有効です。**多頭飼育では、授精対象牛と妊娠牛を群分け**すれば、発情発見を効率化できます。



「繁殖不良牛の早期発見と治療に努める」



- ・分娩後50～60日経っても発情が見られない牛や3回以上授精しても不受胎の牛等、**繁殖障害の疑いがある場合は、獣医師の診断・指導を受けるなど適切に対応**しましょう。また、長期不受胎牛の淘汰・更新は適正に行いましょう。



「繁殖成績優良農家の飼養管理に学ぶ」



- ・好成绩をあげている農場の管理をみて、まず感じるの**は「1年1産」を強く意識した経営に対する取組姿勢**です。その上で、飼養管理に工夫をこらし、基本を踏まえた適切な管理を行っておられます。
- ・Aさんは、授精対象牛1頭1頭の、**個体毎の栄養状態をよく見て増し飼いを**しています。繁殖記録板もわかりやすく記入しており、**個体管理が徹底**されています。
- ・Bさんは、分娩前後の増し飼いや等の管理はもちろんです、**発情発見を重要視**しています。発情予定日の前後3日間は朝、昼、夜の観察を欠かしません。
- ・Cさんは、**早期離乳(人工ほ乳)により、安定して好成绩をあげて**おられます。(1日のほ乳回数を制限する制限ほ乳でも、再帰発情の早期化が期待できます。)

